

Direct-Information of Orienteering in Nippon

(公社) 日本オリエンテーリング協会 理事会・事務局便り



第17号 (2019年9月15日発行)

今号は上期に行われた各種目の世界選手権等の報告を中心にお届けします。

レースにかける選手たちの熱い気持ちや、オリエンテーリングの奥深さをより感じていただけるかと思えます。10月の報告会にもぜひ足をお運びください。

●本号の内容

- ・オリエンテーリング日本代表報告会のお知らせ
- ・オフィシャルパートナー紹介
- ・トレイル0世界選手権報告
- ・フット0世界選手権報告
- ・アジアジュニア・ユース選手権報告
- ・IOF イベントアドバイザークリニック報告
- ・2019年度公認大会・講習会のお知らせ

●オリエンテーリング日本代表報告会のお知らせ (業務執行理事：木村)

下記の通り、オリエンテーリング日本代表報告会を行います。

日時：2019年10月13日(日) 16:00-18:00

駐車スペース：150台

場所：高島市立安曇川公民館 カルチャールームA・B

参加費：無料

(JR湖西線「安曇川」駅より650m)

滋賀県高島市安曇川町田中89番地

電話：0740-32-0003 (GPS設定用)

報告内容

【フット0】

- ・世界オリエンテーリング選手権大会
- ・世界ジュニアオリエンテーリング選手権大会
- ・アジアジュニア・ユースオリエンテーリング選手権大会

【MTB-0】

- ・世界MTBO選手権大会

【トレイル0】

- ・世界トレイル0選手権大会

●オフィシャルパートナー紹介 (事務局)

今回はオフィシャルスポンサーのデサントジャパン様から、会社のご紹介、オフィシャルパートナーとなったきっかけ、オリエンテーリング界への期待についてご寄稿いただきました。

① 会社の紹介

inov-8 (イノヴェイト) は2003年イギリス・イングランド北東部でウェイン・エディによって創業されたブランドです。その後イギリスのトレイルランニングの「聖地」とも言われる湖水地方に本拠地を移しましたが、本社周辺は正に天然のテストフィールドで、商品開発のコンセプト、アイデアはここで生まれ、全世界に向け発信されています。

デサントは2013年からディストリビューターとしてランニング、アウトドア専門店を中心に販売を開始、2015年に子会社化し、さらなる事業拡大を図っています。

2018年7月、ノーベル賞受賞素材「グラフェン」をアウトソールに使用したシューズを発売。鉄の200倍の強度を持つグラフェンをマンチェスター大学との共同開発により、スポーツシューズブランドとして初めて使用することに成功しました。

トレイルランニングに特化したモノづくりは、トップアスリートメディアからも広く評価され、こ

れまでに、数多くの賞を受賞しています。

② オフィシャルパートナーになろうと思ったきっかけ

inov-8 の最大の強みは何と言ってもそのグリップ力です。牧草地、山道、岩場は勿論、雪上、氷上などのハードなコンディションにも対応可能な幅広いアウトソールのバリエーションがあり、様々な地表を駆け巡るオリエンテーリングにも最適です。世界でも有数なオリエンテーリングが盛んなスカンジナビアでも、実際に数多くのアスリートに着用されています。

日本のオリエンテーリングの選手の皆様にも、是非 inov-8 のすばらしさを実感してもらい、パフォーマンス向上のサポートをしたい、そんな想いでオフィシャルパートナーに手を上げました。

③ オフィシャルパートナーとしての期待

オリエンテーリングは知的な要素を感じさせるスポーツです。トレイルランニングと相通ずるところがあり、inov-8 のブランドイメージに合致すると思います。選手の皆様の活躍を通じて、ブランドイメージをさらに高める事、商品の良さをそして inov-8 をより多くの人に知ってもらう事を期待しています。微力ではありますが、オリエンテーリング振興に少しでも役立てればと思います。

JOA オフィシャルパートナーにご興味のある方をぜひご紹介ください。

連絡先：joa@orienteering.or.jp 事務局

●世界トレイルオリエンテーリング選手権大会（理事：茅野）

2019年6月23日-29日に、ポルトガルのイダーニャ・ア・ノヴァを会場に、世界トレイルオリエンテーリング選手権大会が開催され、日本代表選手6名が出場しました。

TempO 競技においては、田中翔大選手が初出場ながら、1人決勝へ進出し、今年の PreO 世界チャンピオン、昨年の世界選手権 TempO 第3位の Pinja Makinen 選手を上回る1桁順位を達成しました。

来年の世界選手権は、11月に香港で開催予定です。さらに、それに先立ち、今年11月にアジア選手権（香港）が、来年5月にヨーロッパ選手権（フィンランド）が予定されています。

● 6月25日、27日 PreO

オープンクラス

1位：Pinja Makinen（フィンランド）56点 126秒

37位：小泉辰喜 50点 163秒

39位：田中翔大 49点 121秒

57位：木村治雄 46点 229秒

パラクラス

1位：Ola Jansson（スウェーデン）53点 158秒

（今年は日本選手の参加なし）

● 6月28日 TrailO リレー

オープンクラス

1位：フィンランド（Pinja Makinen、Sami Hyvonen、Antti Rusanen）116秒

13位：日本（田中翔大、小泉辰喜、岩田健太郎）466秒

パラクラス

1位：チェコ（Hana Dolezalova、Pavel Dudik、Jana Kostova）650秒

（今年は日本チームの参加なし）

● 6月29日 TempO 予選

予選 Green コース

1位：Pavel Kurfurst（チェコ）256秒

1位：Lennart Wahlgren（スウェーデン）256秒

22位：小泉辰喜 425秒

27位：岩田健太郎 453秒

予選 Red コース

1位：Antti Rusanen（フィンランド）208秒



14位：田中翔大 314秒

32位：伴毅 537秒

● 6月29日 TempO 決勝

1位：Marit Wiksell（スウェーデン）294秒

9位：田中翔大 409秒

参考：9月1日現在の世界ランキング（100位以内）

1位：Antti Rusanen（フィンランド）

2位：Pinja Makinen（フィンランド）

3位：Jan Furucz（スロバキア）

68位：茅野耕治

88位：田代雅之

90位：岩田健太郎

99位：田中翔大



● フット0世界選手権報告（日本代表チーム：稲毛日菜子、小牧弘季）

8月中旬に開催されたフット0世界選手権に参加した、稲毛選手と小牧選手からの臨場感のあるレポートです。引き続きご声援のほどよろしくお願いいたします。

【稲毛選手】

8月12～18日にノルウェーにてオリエンテーリング世界選手権（World Orienteering Championships、以下WOC）が行われました。WOCは今年から、フォレスト競技とスプリント競技をそれぞれ分けて隔年での開催となりました。今回はフォレストの年で、ミドルディスタンス（予選決勝方式）、ロングディスタンス、リレーの3競技が行われました。

日本チームは、本来男女の枠3名ずつですが昨年行われたアジア選手権のミドル優勝者（上島選手、盛合選手）にアジア代表特別枠が与えられたため、総勢8名での参加となりました。そのため8名全員が出走したミドル予選では、なんと全48カ国の中で最多人数でした。また、全選手が20代と初出場含む若手で構成されたうえ、スイス在住のセバスチャン・パウマン選手も一員に加わっており、例年とは一味違う雰囲気ของทีมとなりました。

ノルウェーの森は岩盤を氷河が削ってできた大地に広がっており、ふかふかの苔と堅いベリーが生い茂った走りにくい地面、高いところにもある湿地やオープンに見える道、スピードを落とすと頭に飛びついて頭皮をはい回るハエ等、日本のトレインと違うことだらけでした。

本戦前のトレーニング期間は多少の疲労は犠牲に何度もトレインに入り、その難易度に不安を覚えつつも、段々と森と地図とナビゲーションが対応していく成長と面白さを感じることもできました。大会期間中は、緊張・興奮の毎日でした。

実力を発揮できた人、特別な場の空気に吞まれ自分の走りができなかった人それぞれでしたが、大舞台を走った貴重な経験を噛み締めトップ選手達の走りを目の前で観ることができ、オリエンテーリングへの思いはより強くなったと思います。

私個人の振り返りとしては、初参加（2013年）でミドル決勝進出の結果を残して以来満足な走りや順位を獲れず、次こそは！という気持ちで準備に取り組んできました。秋に手術を伴う怪我をし大きなビハインドを作ってしまったが、医者が許すギリギリ+αのリハビリを強行しながら代表レベルまで戻してきました。

それぞれ出走したレースについて、実力を発揮できたかを点数付けるとミドル予選30点、ロング80点、リレー85点です。ロング、リレーはここ数年の失敗続きだった部分をコントロールし、力走できたと思います。特に得意で目標としていたロングで、初めてロングレグを立てたプラン通りスムーズに実行することができ、終盤は足を攣りながら苦しい走りとなりましたがゴールした瞬間達成感、興奮、安堵、感謝で涙が溢れました。しかし順位という結果をみると、アジア+失敗したヨーロッパ勢



の上といういつもの辺りで終わってしまい、じわじわと悔しい気持ちが強く残りました。この思いと反省を糧にまた次の WOC を目指したいと思います。

毎日大好きなオリエンテーリングとじっくり向き合い、森に入る回数を重ねる毎に進化を感じる日々はとても刺激的で幸せでした。そんな機会を与えてくれた周囲の理解と協力、多くの応援ご支援に心から感謝します。

【小牧選手】

私にとって初めての世界選手権が先日終了しました。2週間弱と短い遠征期間でしたが、私にとってはとても長く感じられました。それだけ重圧のかかるレースでした。日本の代表としての立場もありますが、何よりも大会の雰囲気がそうさせていたと思います。スクリーンには GPS や LIVE 映像などを駆使した TV と実況が流れ、優勝争いが手に取るようにわかります。その TV や会場に帰ってくる選手を見て老若男女が熱狂していました。そして優勝争いをするような選手は本当に早く、ミスを全くしません。自分とはまったく違うスポーツをしているようにさえ感じられました。まさにこのスポーツの世界を決めるにふさわしい場所でした。世界選手権の風景は頭にこびりついています。



このような状況においてもある程度自分のレースができたことは収穫でした。今持ち合わせている自分のナビゲーションやフィジカルの範囲でレースをコントロールできました。しかしながらどんなにいいレースをしたとしても今の体力・技術力ではとても世界の選手には及びませんし、予選突破や決勝 50 位以内といった日本チームの目標も現時点では無理でしょう。とはいえまだまだ早くなれると思われ知らされました。そのために日本でもっと高いレベルで競い合っていきたいと思いました。速い選手が集まってしのぎを削る場がもっと増えればいいですね。10 月には全日本、11 月にはインカレが控えています、よりクオリティの高いレースができるようトレーニングを重ねていきたいと思っています。WOC までとは言わずとも観戦も盛り上げられるようがんばります。次の目標はまだ定かではないですが、より早くなった状態で世界に再チャレンジ

したいと強く思います。

今回の世界選手権遠征につきましては多くの関係者の皆さんにご支援いただきました。また、温かいご声援をいただきました。本当にありがとうございました。競技に関する詳細な報告・感想・分析は強化委員会の報告書に書きますのでご覧ください。

●若パワー全開！第3回アジアジュニア・ユースオリエンテーリング選手権大会（強化：寺嶋）

2019年8月27日～9月1日山梨県北杜市にて、第3回アジアジュニア・ユースオリエンテーリング選手権大会（AsJYOC）が開催されました。

日本チームは、4月から合計7回の合宿を行うなど、この大会に向けて準備を行ってきました。

そして、8月25日八ヶ岳レジャーセンターに集合し、公式トレーニングキャンプに参加、最後の調整を行いました。

各国の選手も次第に増え、また JOA オフィシャルスポンサーの SALMING 様から T シャツをチームにご提供いただき、選手たちも素敵な T シャツに、モチベーションも更に上がっていました。



(1) 8月28日 AsJYOC スプリント、大活躍！！

初日の競技、スプリント（個人戦）が開催されました。

昨夜から雨が続き、肌寒い朝を迎えましたが、選手たちが走り始めるころには雨も小休止となりました。初めての国際大会に少し緊張を感じる選手、慣れた様子で準備をする選手、各選手がそれぞれの思いを胸に準備をしている姿が見受けられました。

選手全員が精一杯、全力で走り切り、大活躍の結果は以下のとおりです。

M20：6月合宿での怪我（骨折）から復帰した森清が気迫の優勝を飾り、チームが一気に盛り上がりました。3位に JWOC で活躍したチームリーダーの大石が銅メダル。

W20：香取選手が、安定した技術と気合いの走りで接戦を制し優勝。

M18：AsJYOC 初参加、寺嶋がわずか6秒差で逃げ切り念願の金メダル。

W18：中国が力強さを見せる中、前回 AsJYOC にも参加した落合が銅メダルを獲得。

M16：選手層の厚い高校1年選手はアジアでも強かった。早川、森、福室で圧巻の金銀銅独占。

M14：このクラスは香港が強いが、その中で尾藤が勝負強さを発揮、銅メダルを獲得。

競技終了後、夜は立食パーティースタイルの夕食、開会式、表彰式が行われました。その後、引き続き Night Escape Orienteering が行われ、選手たちは朝から夜まで楽しんでいました。

(2) 8月29日 快晴のレストデー、各選手リフレッシュ！

スプリント競技の翌日はレストデー。運営側が各国から参加した選手も楽しめるよう観光ツアーを企画し、日本選手も参加してきました。

午前中は全選手で「ほうとう作り」を体験しました。あらかじめ決められた各国混合のグループに分かれ、具材の野菜を切ったり、麺を作ったり、和気あいあいと交流している姿が印象的でした。

一生懸命作ったほうとうは味もばっちり！！皆で美味しくいただきました。

午後は「ハイジの村」と「まきば公園」の二手に分かれて観光でした。各自それぞれのペースでリフレッシュできた様子です。

(3) 8月30日 スプリントリレー、悔しさ残る！

8月30日、スプリントリレーが開催されました。

この競技、各年齢区分で、男子2名、女子2名でチームを組むことになっています。日本は、特にU14およびU16世代の女子選手が少なく、リレーに出場するため、新しいメンバーを誘い、チームに迎え、そして一緒にオリエンテーリングのトレーニングを積んできました。



リレー競技が実質的に初めてという選手もいる中、代表としてリレーを走るということで緊張も高かったように思います。前夜は、各チームで作戦会議をしたり、若い世代のチームに、年上世代の選手がアドバイスしたりと、チームがひとつにまとまっていきました。

当日、スタート時刻はM/W14・18クラスが13:30、M/W16・20クラスが13:33、Mixクラスが13:35と遅めのスタートとなりました。スタート前には、チームリーダー大石選手を中心に全選手で気合の円陣！

選手の気合と祈りも通じ、雨も小休止となり、各クラススタート！

コースは想定していたよりも全クラスとも少し難しい印象だったとのことでしたが、全選手が一生懸命走り、次走者へリレーを繋いでいきました。

緊張のせいからか、ポストを飛ばしたり、パンチミスをしたりしてしまう選手が出てしまい、残念ながら結果がつかないチームも出てしまいました。

M/W20：フィジカルで優位に立つ中国が強く、日本の代表2チームが2位争いを演じ、前日優勝の香取選手が最後に第2チーム吉田選手を捉え銀メダルとなった。

M/W18：このクラスも中国が強く、日本は中国、香港を追い3位スタート。寺嶋が香港を抜き、落合がリードを守り銀メダルを獲得した。

M/W16：1走飯沼が、誘導区間手前のコントロールを痛恨の不通過で失格となった。優勝は中国、2位はチャイニーズタイペイ。

M/W14：各選手が安定した実力を発揮し、香港に次いで見事銀メダルを獲得した。

(4) 8月31日 ミドル、4種目制覇で締めくくる！

天気予報は前日と同じような曇時々雨でしたが、打って変わって朝から快晴の中、ミドルディスタンス競技が行われました。

ジュニア世代が挑むには難し過ぎるようなトレインでしたが、日本選手はもちろんアジア各国の選手たちも最後のレースに挑戦、フィニッシュするまで、スピードとナビゲーションをコントロールし、ミスを最小限に抑えた素晴らしいレースをした選手が好成績を獲得しました。



M20、W20：ともに大学生になってからオリエンテーリングを始めたばかり、キャリアたった1年と数ヶ月の朝間、阿部がアジアのジュニア選手権者となりました。会場では、2人の安定したレースの様子が、GPSトラッキングと解説で紹介され大いに盛り上がっていました。

M18：日本チームで最も層の厚い高校1年生世代のエース、飛び級挑戦の寺嶋が見事にスプリントとの2種目制覇を達成しました。W18は落合、古田島が入賞。

M16：スプリントで僅差の3位、2位だった福室、森が見事にワンツーを決めて金銀メダル獲得。W16は清水、飯沼が入賞まで惜しくもあと僅か。

M14、W14：経験の少ない選手ばかりのM/W14でしたが、大会を通して目覚ましい成長を遂げ、M14は尾藤が銀メダル、W14は山本が銀、小笠原が銅メダルを獲得。入賞圏外となった選手が本気で悔しがる姿も印象的でした。

最後のレースを終えた選手は、バンケットで国際交流を行いました。片言でレースについて話したり、地図やウェアを交換したり、お菓子を一緒に食べたり。宿舎では、夜遅くまで盛り上がっていました。

若者中心の運営体制で開催されたAsJYOC2019は本当にいい大会で、日本はじめ各国の選手たちに素晴らしい記憶として残ったものと思います。運営者の皆さまに心から感謝申し上げます。また、日本選手団に多くの声援、ご支援をいただきました。選手にとって大きな勇気とパワーをいただきました。みなさん、どうもありがとうございました。

来年はAsOCが韓国で、再来年は香港でAsJYOCが予定されています。今後ともジュニア世代の活躍にご期待下さい。

(末尾に成績抜粋を掲載しています。)

●IOF イベントアドバイザークリニック報告 (村越真)

アジアジュニア・ユース選手権 (AsJYOC) に先立つ8月26～27日に、清里高原でIOFのイベントアドバイザークリニックが開催された。イベントアドバイザー (EA) とは、国際大会において規則が遵守されていることを大会全般にわたり確認するとともに、運営者と協働してよりよい大会の開催についてアドバイスする。質の高いオリエンテーリング大会開催に不可欠な役割であり、国内大会におけるコントローラとほぼ同等の役割を担っている。IOFによるEAの資格付与の必須条件となっているのが、本クリニックである。

EAは、世界選手権やアジア選手権など、選手権と名の付くものはもちろんのこと、ワールドカップやワールドランキングイベント (WRE) になくってはならない。ここ数年、アジア地区ではアジアカップの開催にともないWREが増えている。このため、アジア地区でのイベントアドバイザー資格者を増やすことは急務だった。そこで、AsJYOCに併設する形で開催されたものである。国内から8名、海外から11名の参加があり (インドネシア5、シンガポール1、台湾1、韓国3、アメリカ1)、講師は村越が務めた。

EAには、もちろんオリエンテーリングの競技規則についての知識が求められる。しかし、それ以上に重要なことは、決して十分とは言えない時間の中で、文化の異なる運営者とともにいい大会を作ろうとする熱意とそれを実行する計画力・実行力である。また、規則はあらゆる場合について、「こう

すべし」と書かれている訳ではなく、常に規則の解釈に悩む状況が生まれる。こうした状況で、EA は公平性や参加者・運営者の利益も勘案しながら総合的に判断をくだし、柔軟に対応することが求められる。

こうした観点から、特に重視されているのが「裁定員ケース演習」である。ここでは、実際にもありそうな以下の様な「ケース」が多数用意され、自分が裁定員であれば、どのように判断を下すのかを考える。ミスは起こり得る。ルールからの逸脱もありえる。その時、どうすれば、全ての人にとってハッピーな結果を生むかという柔軟な発想を持つことが重要だ。それが求められることを自覚するのが、「裁定員ケース演習」である。

当日は、言語の壁はあるものの、熱心な討論が行われるとともに、ルールを運用する難しさも実感することができた。日本オリエンテーリング界のレジェンド杉山隆司氏も参加した。氏は再来年に兵庫で開催されるマスターズ世界選手権のアシスタント EA を務める予定である。



【裁定員ケース演習例】

利用された演習例である。あなたならどんな判断を下すだろう？

「あるイベントで、スタート役員が地図が足りないことに気付いた。そこで急いで手書きで地図を足した。しかし後半の細かいレグ部分の周り順の数字の書き方に問題があり、その地図を使ったランナーが周り順を間違えて失格となった。それに対して調査依頼が出され（経緯を踏まえて）失格が取り消された。その後他のランナーから、当該ランナーの失格提訴が出された」

【IOF 資料による回答例】

「もし、それにより明らかに利益のある周り方をしているのであれば失格であるが、そうでなければ失格とはしない」

決められた通りに回らなければ、規則を厳密に適用すれば失格である。この回答例は、公平性、すなわち当該競技者が不公平に利益を得たかに注目することが重要だということを示唆している。一方で、運営者側のミスをどのように考慮すべきかという点については、回答例の「失格」について疑問の余地も残る。デフが配布されているのかどうか、といった点も実際には問題になるだろう。

●今後の公認大会・講習会のお知らせ

- 10月5-6日 ナヴィゲーション・スキル検定[ゴールドレベル] (埼玉県)
- 10月12日 PO 関西滋賀大会 (滋賀県)
- 10月13日 全日本オリエンテーリング大会[ミドルディスタンス競技] (滋賀県)
- 10月14日 全日本オリエンテーリング大会[ロングディスタンス競技] (滋賀県)
- 10月19-20日 ナヴィゲーション・インストラクター養成講座 (埼玉県)
- 11月16日 全日本オリエンテーリング大会[スプリントディスタンス競技] (福島県)
- 11月30日 2019年度第2回イベントアドバイザー研修会 (東京都)
- 12月8日 全日本オリエンテーリング大会[リレー競技] (茨城県)
- 12月14日 第85回上尾大会 [公認S] (埼玉県)
- 12月14-15日 インストラクター養成講習会 (徳島県)
- 12月22日 栃木県協会大会 [公認S] (栃木県)
- 1月13日 PO 関西和歌山大会 [公認S] (和歌山県)
- 2月23日 第1回阪神奈大会 [公認B] (大阪府)

●アジアジュニア・ユース選手権 成績抜粋

【スプリント（個人戦）成績 8月28日】

M20

1位	森清 星也	JPN	15 : 34
2位	YAOWEN HU	China	15 : 52
3位	大石 洋輔	JPN	16 : 30
4位	朝間 玲羽	JPN	16 : 38
5位	金子 哲士	JPN	16 : 49
6位	YI HUANG	China	17 : 00
7位	椎名 晃丈	JPN	17 : 01

W20

1位	香取 瑞穂	JPN	18 : 26
2位	XUEQIN YANG	China	18 : 34
3位	YAN WANG	China	18 : 44
7位	河野 珠里亜	JPN	21 : 53
8位	阿部 悠	JPN	22 : 17
11位	吉田 茉莉枝	JPN	26 : 10
12位	大栗 由希	JPN	26 : 33

M18

1位	寺嶋 謙一郎	JPN	16 : 23
2位	LONGYUAN LIN	China	16 : 29
3位	YAU MAN CHU	Hong Kong	18 : 01
4位	JINXIAN ZHU	China	18 : 24
5位	生田 真大	JPN	18 : 38
6位	国沢 琉	JPN	18 : 42
9位	牧戸 悠生	JPN	19 : 34
14位	高橋 裕貴	JPN	21 : 00

W18

1位	YIN XIONG	China	14 : 40
2位	YUZHEN ZHAO	China	15 : 06
3位	落合 英那	JPN	15 : 51
4位	YING YAU CHU	China	15 : 57
5位	MENGQIU GUO	China	17 : 23
6位	BIN WANG	China	17 : 36
7位	古田島 鈴音	JPN	17 : 58
9位	丸山 里那子	JPN	19 : 39
14位	伊庭 しづる	JPN	24 : 56

M16

1位	早川 正真	JPN	15 : 18
2位	森 創之助	JPN	15 : 21
3位	福室 凜	JPN	15 : 26
4位	藤原 考太郎	JPN	15 : 45
5位	XINGHUA YAO	JPN	15 : 55
6位	HO KIU AU	Hong Kong	16 : 06
7位	清古 光	JPN	17 : 41

W16

1位	JIA KANG	China	13 : 26
2位	HOI YAN LO	Hong Kong	14 : 23
3位	SHANLIN TAN	China	14 : 24
8位	飯沼 友梨	JPN	16 : 41
9位	清水 優里	JPN	18 : 10

M1 4

1位	HONG CHING FUNG	Hong Kong	9 : 5 3
2位	SIU LONG SHUM	Hong Kong	1 1 : 1 9
3位	尾藤 碩	JPN	1 2 : 0 2
4位	CHEUK NAM LAU	Hong Kong	1 2 : 0 6
5位	CHEUK LONG ETHAN FONG	Hong Kong	1 2 : 4 5
6位	伊藤 和生	JPN	1 3 : 1 7
8位	入江 啓至	JPN	1 4 : 0 3
9位	小比賀 草太	JPN	1 4 : 4 9
1 3位	青山 慶啓	JPN	2 0 : 0 2

W1 4

1位	WAI KI FUNG	Hong Kong	1 2 : 0 6
2位	HIU MAN SOPHIE KO	Hong Kong	1 2 : 4 8
3位	YOYO YOU	Hong Kong	1 3 : 4 4
8位	小笠原 鈴奈	JPN	2 0 : 1 5
1 0位	山本 美沙	JPN	2 7 : 5 6

【8月30日 スプリントリレー競技】

○M/W20

1位	中国	1:06:35
	(XUEQIN YANG/XIAO TANG/YAOWEN HU/ZIYUN YE)	
2位	日本	1:09:18
	(河野/大石/森清/香取)	
	日本	1:09:26
	(阿部/金子/朝間/吉田)	
3位	香港	1:20:34
	(HEI TUNG LEUNG/KA WANG SO/CHEUK WANG WONG/WING YIN WONG)	

○M/W18

1位	中国	54:27
	(YIN XIONG/SHIYU XIONG/LONGYUAN LIN/YUZHEN ZHAO)	
2位	日本	58:14
	(古田島/早川/寺嶋/落合)	
3位	香港	1:04:07
	(YING YAU CHU/TSZ CHUN WONG/YAU MAN CHU/AMANDA CHUN YI CHAN)	
	日本	1:07:34
	(丸山/藤原/生田/伊庭)	

○M/W16

1位	香港	54:22
	(WING MAN/CHEUK HEI LUM/HO KIU AU/HOI YAN LO)	
2位	チャイニーズタイペイ	1:03:43
	(YU/CHI LIANG/PIN/SHENG HSIEH/DONG/YANG LEE/CHUN/YUN CHENG)	

DISQ

日本
(飯沼/森/福室/清水)

○M/W14

1位	香港	46:12
	(PUI YUET SIU/CHEUK NAM LAU/HONG CHING FUNG/WAI KI FUNG)	
2位	日本	56:51
	(山本/尾藤/伊藤/小笠原)	
3位	韓国	1:06:47
	(YU MIN LEE/HEON BIN HA/HYUN MO KOO/CHAE HYEON KIM)	

【8月31日 ミドル・ディスタンス競技】

M20

1	朝間玲羽 (日本)	0:38:58
2	金子哲士 (日本)	0:40:56

3	XIAO TANG (CHN)	0:42:03
4	椎名晃丈 (日本)	0:44:01
5	大石洋輔 (日本)	0:45:11
6	CHEUK WANG WONG (HKG)	0:47:02
8	森清星也 (日本)	0:49:58

W20

1	阿部悠 (日本)	0:41:26
2	MIN-HUEI HUANG (TPE)	0:41:32
3	YAN WANG (CHN)	0:43:16
4	ZIYUN YE (CHN)	0:45:21
5	香取瑞穂 (日本)	0:49:56
6	XUEQIN YANG (CHN)	0:54:48
8	吉田茉莉枝 (日本)	1:18:23
	大栗由希 (日本)	1:53:58
	河野珠里亜 (日本)	DISQ

M18

1	寺嶋謙一郎 (日本)	0:36:33
2	YAU MAN CHU (HKG)	0:41:39
3	TSZ CHUN WONG (HKG)	0:45:28
4	JINXIAN ZHU (CHN)	0:50:06
5	KAI YUI YAM (HKG)	0:51:54
6	SHIYU XIONG (CHN)	0:53:35
9	牧戸悠生 (日本)	0:55:36
11	生田真大 (日本)	0:56:49
13	高橋裕貴 (日本)	1:31:17
	国沢琉 (日本)	DISQ

W18

1	YING YAU CHU (HKG)	0:34:32
2	YIN XIONG (CHN)	0:38:47
3	YI SHAN WONG (HKG)	0:39:00
4	BIN WANG (CHN)	0:40:41
5	落合英那 (日本)	0:42:49
6	古田島鈴音 (日本)	0:50:04
10	伊庭しづる (日本)	1:03:53
11	丸山里那子 (日本)	1:07:52

M16

1	福室凜 (日本)	0:28:28
2	森創之介 (日本)	0:29:45
3	CHEUK HEI LUM (HKG)	0:30:35
4	HO KIU AU (HKG)	0:32:04
5	清古光 (日本)	0:35:13
6	XIN XIAO (CHN)	0:35:30
7	藤原考太郎 (日本)	0:39:14

W16

1	WING MAN (HKG)	0:37:44
2	SHANLIN TAN (CHN)	0:42:47
3	YU-CHI LIANG (TPE)	0:47:41
4	HOI YAN LO (HKG)	0:49:46
5	TSZ WING KWONG (HKG)	0:52:58
6	WING YIN WONG (HKG)	0:54:00
7	清水優里 (日本)	0:54:53
8	飯沼友梨 (日本)	0:55:42

M14

1 HONG CHING FUNG (HKG)	0:17:18
2 尾藤 碩 (日本)	0:20:19
3 SIU LONG SHUM (HKG)	0:22:31
4 HEON BIN HA (KOR)	0:22:53
5 CHEUK LONG ETHAN FONG (HKG)	0:23:22
6 MAN KIT BOSCO YAU (HKG)	0:26:01
7 入江啓至 (日本)	0:26:31
9 青山慶啓 (日本)	0:31:11
12 伊藤和生 (日本)	0:46:19
13 小比賀草太 (日本)	0:51:37

W14

1 YOYO YOU (HKG)	0:32:05
2 山本美沙 (日本)	0:33:44
3 小笠原鈴奈 (日本)	0:34:17
4 PUI YUET SIU (HKG)	0:35:11
5 HIU MAN SOPHIE KO (HKG)	0:43:32
6 WAI KI FUNG (HKG)	0:43:42

以上